

# 令和5年度 未来を創る学力向上支援事業に係る小学校英語教育推進校公開授業

令和5年11月14日(火)開催 竹田教育事務所

11月14日(火)に竹田市立久住小学校にて、標題の公開授業及び事後研究会を行いました。授業参観や協議を通して、学習到達目標の達成に向けた授業改善や効果的な指導の在り方について意見交流を行いました。

## <研修内容>

### (1) 事前説明「授業観察の視点」

①【Small Talk】【Activity】は本時のねらいを達成するために効果的であったか。

②『たのしもう』『まねっこ』『おかえし』は、主体的にコミュニケーションを図る児童の育成に効果的であったか。

(2) 公開授業 単元名「アメリカの方に日本の行事を伝えよう」  
(NEW HORIZON Elementary 5 Unit 7 Welcome to Japan.)

授業者: 志賀 裕美 教諭 (5年: 外国語)  
Jacob William Hochstasser

(3) 事後研究会「授業実践の振り返りと今後に向けて」

## 公開授業



ALTの先生とのチーム・ティーチングです。それぞれの先生方の役割が明確で、子どもたちにとって良い「モデル」になっていました。

グループ活動では、好きな季節やその理由についてやり取りをしました。チャンツで練習したことを生かして、会話を楽しんでいました。



子どもたちは普段通り意欲的に学習に取り組んでいました。学習規律があり、動きにメリハリがある中で、英語の発音の良さが際立っていました。

## 事後研究会(グループ協議)



授業観察の視点について3~4人グループで協議しました。

どのグループにおいても活発な議論が行われ、協議内容の深まりが感じられました。



授業観察の視点以外にも様々な角度から授業を分析し、今後に生かせることを整理していました。

## 事後研究会(全体共有)

各グループの代表の方の発表では、授業者の授業の組み立てや様々な工夫について多くの肯定的意見が出されました。



## (参加者の感想)

- ・相手意識や目的意識のある単元のゴールを明確にしつつ、子どもたちとそれを共有することで、子どもたちが主体的に授業に臨むことができるということを改めて実感することができました。
- ・教師が教えるというより、「どうすれば良いと思う?」「どうだった?」と児童に投げかける発問が多かった授業でした。児童が自発的・主体的に考え、自分のやり取りに工夫を加えようとする場面設定ができており、非常に参考になりました。
- ・中間指導の在り方や中学年と高学年の求める姿の違い等について、改めて考える機会になりました。